

1966年 大会記録

国際

◇全米選手権 ()

《フリースタイル》▼フライ級 奥田尚重(桃山学院大)、▼バンタム級 加藤一之(東北学院大)、▼フェザー級 越後賢二(専大)、▼ライト級 中野憲一(関大)、▼ウェルター級 黒沢健次(東洋大)

《グレコローマン》▼フライ級 獵場政志(日大)、▼バンタム級 斎藤雅紫(日大)、▼フェザー級 高橋健介(明大)、▼ライト級 柏崎正毅(明大)、▼ウェルター級 金沢徳信(明大)

◇世界選手権 (6月16~22日、米国・トレド)

《グレコローマン》▼フライ級 加藤融(日体大) = 三失、▼バンタム級 桜間幸次(自衛隊) = 2位、▼フェザー級 藤本英男(日体大) = 6位、▼ライト級 宗村宗二(大谷運輸) = 4位、▼ウェルター級 藤井照雄(明大) = 二失、▼ミドル級 藤田裕充(関大) = 二失、▼ライトヘビー級 相原昇(北海道・美唄高教) = 三失、▼ヘビー級 丸山充信(慶大) = 計量失格

《フリースタイル》▼フライ級 勝村靖夫(日体大) = 2位、▼バンタム級 池田博志(佐伯信用金庫) = 三失、▼フェザー級 金子正明(自衛隊) = 優勝、▼ライト級 堀内岩雄(電々東京) = 2位、▼ウェルター級 渡辺保夫(横山寝具店) = 6位、▼ミドル級 遠藤茂(日大) = 三失、▼ライトヘビー級 伊藤義人(日体大) = 三失、▼ヘビー級 妹尾武三郎(専大) = 二失

◇アジア新興国スポーツ大会 (11月25~12月5日、カンボジア・プノンペン)

《フリースタイル》▼バンタム級 本橋元一() = 優勝、▼フェザー級 山崎() = 2位、▼ライト級 石井() = 優勝、▼ウェルター級 岩井() = 2位、▼ミドル級 穂積() = 3位、▼ライトヘビー級 関野() = 2位、▼ヘビー級 正木() = 優勝

《グレコローマン》▼フライ級 獵場() = 2位、▼バンタム級 加藤() = 3位、▼フェザー級 今() = 優勝、▼ライト級 明星() = 優勝、▼ウェルター級 竹内() = 4位、▼ミドル級 天野() = 優勝、▼ライトヘビー級 塩田琢蔵(青山学院大) = 優勝、▼ヘビー級 丸山彰治(滝野川自動車) = 2位

◇アジア大会（12月10～13日、タイ・バンコク）

《フリースタイル》▼フライ級 中田茂男（中大）＝優勝、▼バンタム級 田中忠道（法大）＝優勝、▼フェザー級 金子正明（自衛隊）＝優勝、▼ライト級 飛田義治（中大）＝2位、▼ウェルター級 馬淵敏（日大）＝5位、▼ミドル級 佐々木龍雄（自衛隊）＝優勝、▼ライトヘビー級 川野俊一（自衛隊）＝3位、▼ヘビー級 滝沢信也（日大）＝4位
※グレコローマンは実施せず

国内

◇全日本社会人選手権（3月12日、茨城・大子中）

《実業団対抗戦優勝》自衛隊A

《フリースタイル優勝者》▼60kg級 福田富昭（日本スタミノン）、▼70kg級 清水守（東洋大職）、▼85kg級 西森（京浜土地）、▼85kg以上級 佐々木龍雄（自衛隊）
※グレコローマンは実施せず

◇東日本学生春季新人戦（、東京・青山レスリング会館）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級、▼バンタム級、▼フェザー級、▼ライト級、▼ウェルター級、▼ミドル級、▼ライトヘビー級、▼ヘビー級
※フリースタイルのみ

◇西日本学生春季リーグ戦（5月7・8・20～22日、大阪府立体育会館別館ほか）

《順位》[1] 関大（5季連続21度目）、[2] 関学大、[3] 同志社大、[4] 近大、[5] 名商大、[6] 桃山学院大、[7] 名城大、[8] 広島修道大

◇東日本学生リーグ戦（5月21日～6月19日、東京・青山レスリング会館）

《順位》[1] 日大（初）、[2] 日体大、[3] 中大、[4] 明大、[5] 専大、[6] 法大、[7] 東洋大

◇西日本学生選手権（）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 岡田雅勝（関大）、▼バンタム級 横山瞭一（関学大）、▼フェザー級 平井穰（近大）、▼ライト級 中野憲一（関大）、▼ウェルター級 蛭沼陸男（近大）、▼ミドル級 倉橋裕（関大）

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 岡田雅勝（関大）、▼バンタム級 横山瞭一（関

学大)、▼フェザー級 佐藤秀雄(関大)、▼ライト級 藤原隆夫(関学大)、▼ウエルター級 蛭沼陸男(近大)、▼ミドル級 倉橋裕(関大)

◇インターハイ(8月4~7日、青森・八戸高)

《学校対抗戦》[1] 青森・八戸工(初)、[2] 山形・山形商、[3] 秋田・秋田商、東京・東京実

《個人戦優勝者》▼52kg級 上坂貢(茨城・日立一)、▼55kg級 加藤光利(東京・東京実)、▼58kg級 藤田義郎(青森・八戸工)、▼61kg級 柴田覚(青森・八戸工)、▼65kg級 岡田健次(東京・京北)、▼69kg級 出河満男(青森・八戸工)、▼73kg級 桜井七郎(宮城・仙台育英)、▼73kg以上級 佐藤喜信(山形・山形商)

◇全日本学生選手権(9月19~21日、東京・岸記念体育会館)

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 中田茂男(中大)、▼バンタム級 田中忠道(法大)、▼フェザー級 山崎利之(日大)、▼ライト級 飛田義治(中大)、▼ウエルター級 佐藤明弘(日体大)、▼ミドル級 遠西広恒(法大)、▼ライトヘビー級 笹川一夫(日大)

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 石黒修一(日体大)、▼バンタム級 服部正男(明大)、▼フェザー級 高橋俊介(明大)、▼ライト級 新庄健彦(明大)、▼ウエルター級 藤井照雄(明大)、▼ミドル級 武田允興(日体大)、▼ライトヘビー級 早川修(日大)

◇全日本選手権(10月6~9日、埼玉・飯能一中)

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 中田茂男(中大)、▼バンタム級 田中忠道(法大)、▼フェザー級 金子正明(自衛隊)、▼ライト級 飛田義治(中大)、▼ウエルター級 渡辺保夫(横山寝具店)、▼ミドル級 佐々木竜雄(自衛隊)、▼ライトヘビー級 川野俊一(自衛隊)、▼ヘビー級 滝沢信也(日大)

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 月岡金四郎(藤本企業)、▼バンタム級 服部正男(明大)、▼フェザー級 岩室好純(明大OB)、▼ライト級 宗村宗二(明大)、▼ウエルター級 藤井照雄(明大)、▼ミドル級 開健二郎(自衛隊)、▼ライトヘビー級 服部勤(日体大)、▼ヘビー級=出場なし

◇全日本学生王座決定戦(10月15~16日、東京・青山レスリング会館)=決勝記録

日大○[6-3] ●明大

※日大は2年連続3度目の優勝

◇国体（10月24～27日、大分・佐伯鶴城高）

《一般フリースタイル優勝者》▼フライ級 柳田英明（秋田）、▼バンタム級 池田博志（大分）、▼フェザー級 金子正明（埼玉）、▼ライト級 飛田義治（新潟）、▼ウエルター級 渡辺保夫（岐阜）、▼ミドル級 殿村明大（福岡）、▼ライトヘビー級 佐々木龍雄（埼玉）、▼ヘビー級 野島憲三（新潟）

《一般グレコローマン優勝者》▼フライ級 七尾秀樹（東京）、▼バンタム級 服部正男（大分）、▼フェザー級 間庭秀夫（埼玉）、▼ライト級 鶴巻隆義（新潟）、▼ウエルター級 宗村宗二（新潟）、▼ミドル級 田代俊郎（千葉）、▼ライトヘビー級 開健次郎（埼玉）、▼ヘビー級 服部勤（岐阜）

《高校優勝者》▼52kg級 市川好秋（山口）、▼55kg級 赤川光弘（新潟）、▼58kg級 藤田義郎（青森）、▼61kg級 斎藤正寿（宮城）、▼65kg級 片山米司（山口）、▼69kg級 海野功（北海道）、▼73kg級 青木孝重（北海道）、▼73kg以上級 佐藤善雄（山口）

※少年はフリースタイルのみ

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月4日～21日、大阪府立体育会館別館ほか）

《順位》[1] 関大（6季連続22度目）、[2] 関学大、[3] 同志社大、[4] 近大、[5] 名商大、[6] 桃山学院大、[7] 名城大、[8] 中京大、[9] 広島修道大

◇東日本学生秋季新人戦（11月19～20日、東京・青山レスリング会館）

▼フライ級、▼バンタム級、▼フェザー級、▼ライト級、▼ウエルター級、▼ミドル級、▼ライトヘビー級、▼ヘビー級

※フリースタイルのみ